

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	駿河平線			事業者名	富士急シティバス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	三島駅	下土狩駅 がんセンター	駿河平		
系統キロ程 (km)	10.6	輸送量 (人/日)	30.5		
平均乗車密度 (人/便)	4.3	運行回数 (回/日)	7.1		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	長泉北小学校、長泉小・中学校			
	病院	県立がんセンター			
	商業施設	ウエルディ長泉、クレマチスの丘、ビュフェ美術館等、スルガ銀行、ベックマンコールター			
	その他	JR下土狩駅、JR三島駅、伊豆箱根鉄道広小路駅、長泉町役場、長泉健康公園、三島市民会館、長泉町文化会館			
収支率 (%) (収益/費用)	81.7		乗車人員 (人)	66,514	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点3 バス停3	名称	拠点：JR下土狩駅、JR三島駅、伊豆箱根鉄道広小路駅 バス停：長泉役場、城山、がんセンター		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	44.0				
増収策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 行政と連携し、地域との意見交換を行い、今後の路線バスの検討を行うとともに、その機会を利用して路線の存在をアピールすることにより、利用促進を図る。 2) コンテンツプロバイダにデータを提供し、時刻表検索サービスへの参加を図る。(ナビタイム、平成27年3月より提供開始。他のコンテンツプロバイダと折衝中) 3) 地域特化型の時刻表を作成し、行政の高齢者用の利用券等交付の際に各人へ配布。また自治会等地域の協力の下に時刻表の配布を実施。 4) 静岡運輸支局の「交通バリアフリー教室」への参加。幼稚園、小学校等における「バス乗り方教室」を3市町に拡大して実施した。(動機づけや校外利用促進) 5) ノンステップバスを継続導入するとともに、既存車両についても車内設備を更新し、使いやすいバス環境を整備する。 				
費用削減策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等についても、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 2) アイドリングストップ強化月間の実施や点呼等による周知徹底、街頭監査による注意喚起により、燃費向上を実現し軽油使用料の削減を図った。 3) 車両の更新により、燃費効率向上と修繕費の削減を図った。 4) 効率的な仕業再編による乗務員人件費の抑制を図った。 				
沿線市町のサポート	<p>【三島市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要交通結節点である新幹線三島駅を発着する幹線であることを生かし、新幹線通勤・通学者の二次交通としての利便性向上を図る方策を事業者と検討している。 <p>また、ファルマバレー構想を推進するためのビジネスマッチングを模索しており、進出企業や医療機関と新幹線駅を結ぶ二次交通としての需要を促したい。</p> <p>【長泉町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該路線は、約50名が小学校及び中学校の通学に利用しており、地元区としても、地域の重要な交通手段であるとの認識のもと、区全体の課題として継続して利用促進策、バス事業者への提案等について検討していく。また、町としても、地元区への必要な情報提供等連携を図っていく。 <p>また、来年度以降バス事業者と連携した町内路線バスを対象とした啓発イベントについて企画検討を進めるとともに、引き続き町独自の補助を実施する。</p>				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	須山線			事業者名	富士急シティバス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	三島駅	御宿 下和田上	須山		
系統キロ程 (km)	19.8	輸送量 (人/日)	26.2		
平均乗車密度 (人/便)	3.6	運行回数 (回/日)	7.3		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	日本大学、日大三島高校、三島北小・中学校、徳倉小学校、裾野西小学校、富岡第一小学校、富岡中学校、富岡第二小学校、須山小・中学校			
	病院	大橋医院			
	商業施設	ヘルシティ			
	その他	裾野市役所、裾野市富岡支所、裾野市須山支所、裾野警察署、JR三島駅、JR裾野駅			
収支率 (%) (収益/費用)	56.0		乗車人員 (人)	94,628	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停 8	名称	拠点：JR三島駅、JR裾野駅 バス停：東レ入口、萩芙蓉台、三菱前、佐野、御宿、東名裾野、今里、須山		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	29.0				
増収策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 行政と連携し、地域との意見交換を行い、今後の路線バスの検討を行うとともに、その機会を利用して路線の存在をアピールするとにより、利用促進を図る。 2) コンテンツプロバイダにデータを提供し、時刻表検索サービスへの参加を図る。(ナビタイム、平成27年3月より提供開始。他のコンテンツプロバイダと折衝中) 3) 地域特化型の時刻表を作成し、行政の高齢者用の利用券等交付の際に各人へ配布。また自治会等地域の協力の下に時刻表の配布を実施。 4) 静岡運輸支局の「交通バリアフリー教室」への参加。幼稚園、小学校等における「バス乗り方教室」を3市町に拡大して実施した。(動機づけや校外利用促進) 5) ノンステップバスを継続導入するとともに、既存車両についても車内設備を更新し、使いやすいバス環境を整備する。 				
費用削減策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等についても、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 2) アイドリングストップ強化月間の実施や点呼等による周知徹底、街頭監査による注意喚起により、燃費向上を実現し軽油使用料の削減を図った。 3) 車両の更新により、燃費効率向上と修繕費の削減を図った。 4) 効率的な仕業再編による乗務員人件費の抑制を図った。 				
沿線市町のサポート	<p>【三島市】 主要交通結節点である新幹線三島駅を発着する幹線であることを生かし、新幹線通勤・通学者の二次交通としての利便性向上を図る方策を事業者と検討している。 また、ファルマバレー構想を推進するためのビジネスマッチングを模索しており、進出企業や医療機関と新幹線駅を結ぶ二次交通としての需要を促したい。</p> <p>【裾野市】 ・路線バス時刻表を市内公共施設へ配布。 ・裾野市HPに路線バス時刻表を掲載。 ・世界遺産富士山のラッピングを施し、その他収入として側面から支援。 ・裾野駅南北循環線エリア外の高齢者へバス・タクシー利用助成券を交付。 ・幼稚園・保育園児を対象としたバスの乗り方教室を実施。 ・乗降調査結果から、利用者のニーズ把握に努める。</p>				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	須山線			事業者名	富士急シティバス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	三島駅	今里集会所 下和田上	須山		
系統キロ程 (km)	15.4		輸送量 (人/日)	15.1	
平均乗車密度 (人/便)	4.2		運行回数 (回/日)	3.6	
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	日本大学、日大三島高校、三島北小・中学校、徳倉小学校、裾野西小学校、富岡第一小学校、富岡中学校、富岡第二小学校、須山小・中学校			
	病院	大橋医院			
	商業施設	ベルシティ			
	その他	裾野市役所、裾野市富岡支所、裾野市須山支所、裾野警察署、JR三島駅、JR裾野駅			
収支率 (%) (収益/費用)	69.8		乗車人員 (人)	53,165	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停7	名称	拠点：JR三島駅、JR裾野駅 バス停：東出入口、萩芙蓉台、三菱前、佐野、御宿、東名裾野、今里		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	18.0				
増収策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 行政と連携し、地域との意見交換を行い、今後の路線バスの検討を行うとともに、その機会を利用して路線の存在をアピールすることにより、利用促進を図る。 2) コンテツプロバイダにデータを提供し、時刻表検索サービスへの参加を図る。(ナビタイム、平成27年3月より提供開始。他のコンテツプロバイダと折衝中) 3) 地域特化型の時刻表を作成し、行政の高齢者用の利用券等交付の際に各人へ配布。また自治会等地域の協力の下に時刻表の配布を実施。 4) 静岡運輸支局の「交通バリアフリー教室」への参加。幼稚園、小学校等における「バス乗り方教室」を3市町に拡大して実施した。(動機づけや校外利用促進) 5) ノンステップバスを継続導入するとともに、既存車両についても車内設備を更新し、使いやすいバス環境を整備する。 				
費用削減策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等についても、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 2) アイドリングストップ強化月間の実施や点呼等による周知徹底、街頭監査による注意喚起により、燃費向上を実現し軽油使用料の削減を図った。 3) 車両の更新により、燃費効率向上と修繕費の削減を図った。 4) 効率的な仕業再編による乗務員人件費の抑制を図った。 				
沿線市町のサポート	<p>【三島市】</p> <p>主要交通結節点である新幹線三島駅を発着する幹線であることを生かし、新幹線通勤・通学者の二次交通としての利便性向上を図る方策を事業者と検討している。</p> <p>また、ファルマバレー構想を推進するためのビジネスマッチングを模索しており、進出企業や医療機関と新幹線駅を結ぶ二次交通としての需要を促したい。</p> <p>【裾野市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バス時刻表を市内公共施設へ配布。 ・裾野市HPに路線バス時刻表を掲載。 ・世界遺産富士山のラッピングを施し、その他収入として側面から支援。 ・裾野駅南北循環線エリア外の高齢者へバス・タクシー利用助成券を交付。 ・幼稚園・保育園児を対象としたバスの乗り方教室を実施。 ・乗降調査結果から、利用者のニーズ把握に努める。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	御長屋線			事業者名	富士急シティバス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	三島駅	下土狩駅 がんセンター	桃沢郷		
系統キロ程 (km)	14.4	輸送量 (人/日)	16.2		
平均乗車密度 (人/便)	3.0	運行回数 (回/日)	5.4		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	長泉北小学校、長泉小学校、長泉中学校			
	病院	県立がんセンター			
	商業施設	ウエルディ長泉、ベックマン・コルター			
	その他	長泉町役場、長泉健康公園、三島市民会館、長泉町文化会館、桃沢郷野外活動センター、JR下土狩駅、JR三島駅、伊豆箱根鉄道広小路駅			
収支率 (%) (収益/費用)	56.2		乗車人員 (人)	40,860	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点3 バス停3	名称	拠点：JR三島駅、JR下土狩駅、伊豆箱根鉄道広小路駅 バス停：長泉役場、城山、がんセンター		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	57.0				
増収策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 行政と連携し、地域との意見交換を行い、今後の路線バスの検討を行うとともに、その機会を利用して路線の存在をアピールするとにより、利用促進を図る。 2) コンテンツプロバイダにデータを提供し、時刻表検索サービスへの参加を図る。(ナビタイム、平成27年3月より提供開始。他のコンテンツプロバイダと折衝中) 3) 地域特化型の時刻表を作成し、行政の高齢者用の利用券等交付の際に各人へ配布。また自治会等地域の協力の下に時刻表の配布を実施。 4) 静岡運輸支局の「交通バリアフリー教室」への参加。幼稚園、小学校等における「バス乗り方教室」を3市町に拡大して実施した。(動機づけや校外利用促進) 5) ノンステップバスを継続導入するとともに、既存車両についても車内設備を更新し、使いやすいバス環境を整備する。 				
費用削減策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等についても、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 2) アイドリングストップ強化月間の実施や点呼等による周知徹底、街頭監査による注意喚起により、燃費向上を実現し軽油使用量の削減を図った。 3) 車両の更新により、燃費効率向上と修繕費の削減を図った。 4) 効率的な作業再編による乗務員人件費の抑制を図った。 				
沿線市町のサポート	<p>【三島市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要交通結節点である新幹線三島駅を発着する幹線であることを生かし、新幹線通勤・通学者の二次交通としての利便性向上を図る方策を事業者と検討している。 また、ファルマバレー構想を推進するためのビジネスマッチングを模索しており、進出企業や医療機関と新幹線駅を結ぶ二次交通としての需要を促したい。 <p>【長泉町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該路線沿線は、町内でも高齢率が高い地域であり、また、約30名の児童が小学校や中学校への通学に利用しており、バス事業者にスクールバス形態で、朝1便別に運行に協力をいただいている事情もあり、当面は現状のとおり町が欠損額を補助して、運行を継続していきたいと考えている。地元区においても、問題意識をもっており、区の行事等での利用呼びかけ等は実施している。また、日中の便がないため、特に高齢者はバスを利用して出かける夕方まで帰れないという認識が強く、利用に結びついていないため、増便で難しいにしてもダイヤ見直しを求めるなど、事業者への提案もしている。 また、町としても平成25年度より、当該地域におけるイベントを開催することによる利用促進等についても取り組んでおり、来年度以降バス事業者と連携した町内路線バスを対象とした啓発イベントについても企画検討を進めるとともに、引き続き町独自の補助を実施する。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	御殿場線			事業者名	富士急シティバス株式会社	
路線の状況	起点	経由地	終点			
	三島駅	岩波駅	御殿場駅			
系統キロ程 (km)	22.0		輸送量 (人/日)	20.7		
平均乗車密度 (人/便)	3.0		運行回数 (回/日)	6.9		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	日本大学、日大三島高校、三島北小・中学校、徳倉小学校、裾野西小学校、神山小学校、富士岡小・中学校				
	病院	大橋医院、神山復聖病院				
	商業施設	ヘルシティ、時の栖				
	その他	裾野市役所、裾野市営プール、裾野市民文化センター、裾野警察署				
収支率 (%) (収益/費用)	46.8		乗車人員 (人)	80,212		
乗換可能な アクセス拠点等	拠点 3 バス停 9	名称	拠点：JR三島駅、JR岩波駅・JR御殿場駅 バス停：東し入口、三笠前、佐野、復聖病院前、かまど中、萩芙蓉台、裾野駅入口、裾野文化センター、森の腰			
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	38.0					
増収策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 行政と連携し、地域との意見交換を行い、今後の路線バスの検討を行うとともに、その機会を利用して路線の存在をアピールすることにより、利用促進を図る。 2) コンテンツプロバイダにデータを提供し、時刻表検索サービスへの参加を図る。(ナビタイム、平成27年3月より提供開始。他のコンテンツプロバイダと折衝中) 3) 地域特化型の時刻表を作成し、行政の高齢者用の利用券等交付の際に各人へ配布。また自治会等地域の協力の下に時刻表の配布を実施。 4) 静岡運輸支局の「交通バリアフリー教室」への参加。幼稚園、小学校等における「バス乗り方教室」を3市町に拡大して実施した。(動機づけや校外利用促進) 5) ノンステップバスを継続導入するとともに、既存車両についても車内設備を更新し、使いやすいバス環境を整備する。 					
費用削減策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等についても、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 2) アイドリングストップ強化月間の実施や点呼等による周知徹底、街頭監査による注意喚起により、燃費向上を実現し軽油使用料の削減を図った。 3) 車両の更新により、燃費効率向上と修繕費の削減を図った。 4) 効率的な仕業再編による乗務員人件費の抑制を図った。 					
沿線市町のサポート	<p>【三島市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要交通結節点である新幹線三島駅を発着する幹線であることを生かし、新幹線通勤・通学者の二次交通としての利便性向上を図る方策を事業者と検討している。 また、世界遺産登録された富士山観光の二次交通としての利便性向上を図り、需要を掘り起こすための方策として、駅前ロータリーの整備等を進めている。 <p>【御殿場市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度策定予定の地域公共交通網形成計画において、広域的幹線として改めて位置付けを行い、公共交通に対する利用者意識の啓発と利用促進について目標と施策の設定を行う。 ・支線系統等の地域内交通ネットワークの新設・再編等を検討する場合において、幹線系統への乗り継ぎ・連携を考慮して検討を行う。 ・時刻表配布等の交通事業者の取り組みへの協力や、市広報紙やホームページ等の広報媒体の活用による公共交通の利用促進、啓発を実施する。 <p>【裾野市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バス時刻表を市内公共施設へ配布。 ・裾野市HPに路線バス時刻表を掲載。 ・富士急シティバスの車両に、世界遺産富士山のラッピングを施し、その他収入として側面から支援。 ・裾野駅南北循環線エリア外の高齢者へバス・タクシー利用助成券を交付。 ・幼稚園・保育園児を対象としたバスの乗り方教室を実施。 ・乗降調査結果から、利用者のニーズ把握に努める。 					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>					

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

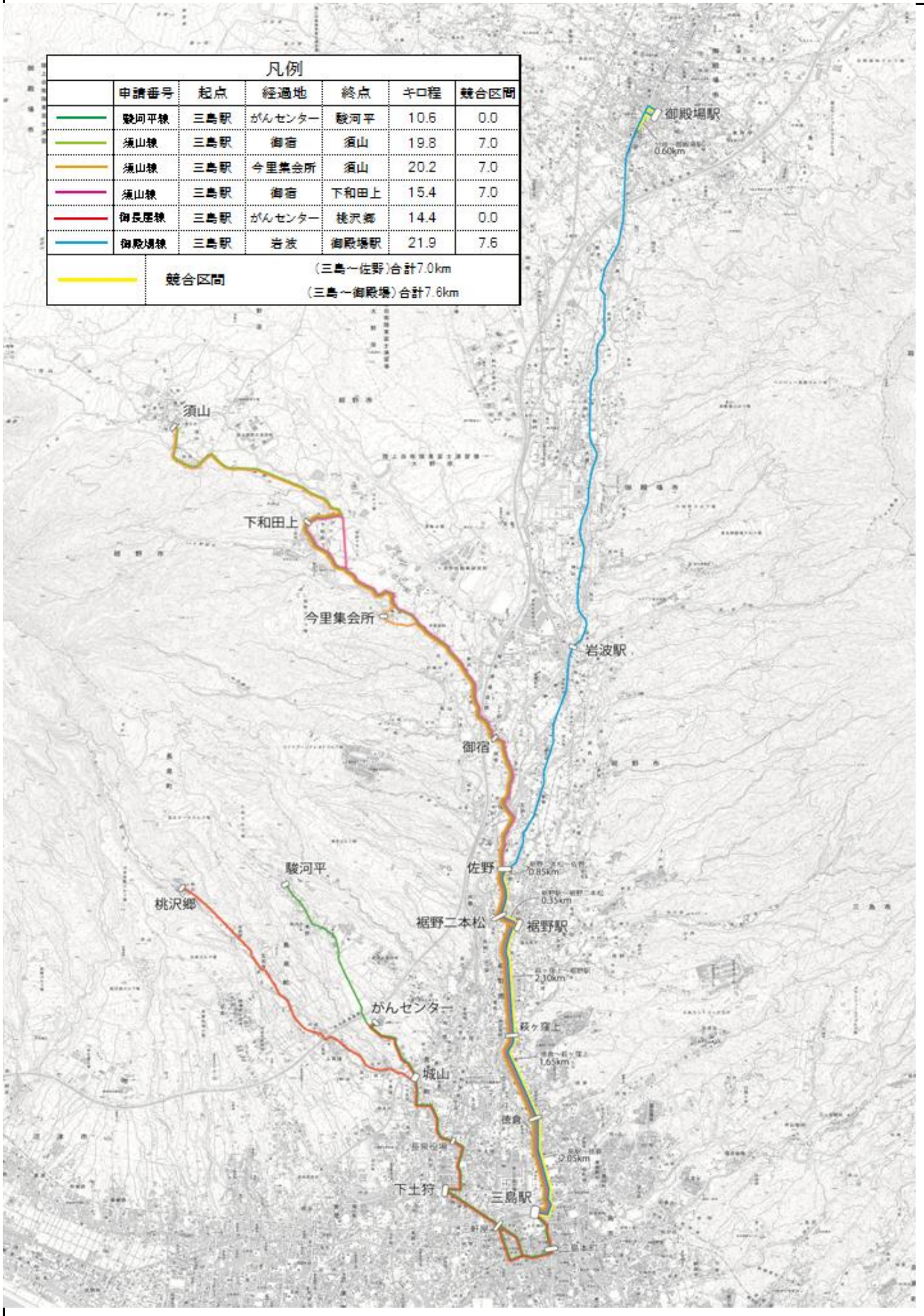
系統名	原線			事業者名	富士急シティバス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	沼津駅	旧道 原駅入口	東田子浦駅		
系統キロ程 (km)	12.8	輸送量 (人/日)	17.6		
平均乗車密度 (人/便)	2.6	運行回数 (回/日)	6.8		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	原小・中学校、沼津西高校、市立第二中学校			
	病院				
	商業施設	西友松長店、カインズホーム沼津店			
	その他	JR沼津駅、JR片浜駅、JR原駅、JR東田子浦駅、保健センター、原警察署			
収支率 (%) (収益/費用)	48.0		乗車人員 (人)	57,275	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停4	名称	拠点：JR沼津駅、JR東田子浦駅 バス停：大手町、大諏訪、片浜駅入口、原駅入口		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	6.0				
増収策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 行政と連携し、地域との意見交換を行い、今後の路線バスの検討を行うとともに、その機会を利用して路線の存在をアピールすることにより、利用促進を図る。 2) コンテンツプロバイダにデータを提供し、時刻表検索サービスへの参加を図る。(ナビタイム、平成27年3月より提供開始。他のコンテンツプロバイダと折衝中) 3) 地域特化型の時刻表を作成し、行政の高齢者用の利用券等交付の際に各人へ配布。また自治会等地域の協力の下に時刻表の配布を実施。 4) 静岡運輸支局の「交通バリアフリー教室」への参加。幼稚園、小学校等における「バス乗り方教室」を3市町に拡大して実施した。(動機づけや校外利用促進) 5) ノンステップバスを継続導入するとともに、既存車両についても車内設備を更新し、使いやすいバス環境を整備する。 				
費用削減策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等についても、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 2) アイドリングストップ強化月間の実施や点呼等による周知徹底、街頭監査による注意喚起により、燃費向上を実現し軽油使用料の削減を図った。 3) 車両の更新により、燃費効率向上と修繕費の削減を図った。 4) 効率的な仕業再編による乗務員人件費の抑制を図った。 				
沿線市町のサポート	<p>【沼津市】 平成28年1月19日に開催した沼津市公共交通活性化対策協議会において、事業評価及び今後の取組について協議、検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス乗り方教室の開催 ・地元との意見交換会等による利用促進 ・本路線を含めた市内全域バス路線図をバス協会と作成、公共施設や観光協会等に配布 ・本路線を含めた事業者作成のチラシ、時刻表を公共施設等に配布 ・市ホームページへの市内全域路線図掲載 ・市ホームページから運行事業者ホームページへのリンク <p>※事業者からも経費削減の取組の他、インターネットによる時刻表・運賃検索システムを導入予定との報告を受けた。引き続き事業者と連携して利用促進策に取り組んでいく。</p> <p>【富士市】 市としては、「親子ワンデー・トリップ・チャレンジャー」、「バスの日イベント」等のMMの実施や、「富士市バスナビ」の配布などを行うことで、路線を維持していく。</p>				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	沼津高専線			事業者名	富士急シティバス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	沼津駅	国産電機前	沼津高専		
系統キロ程 (km)	6.3	輸送量 (人/日)	36.1		
平均乗車密度 (人/便)	4.2	運行回数 (回/日)	8.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	沼津中央高校、沼津市立高校、加藤学園高校、飛龍高校、沼津城北高校、沼津高専、沼津テクノカレッジ、第五小、中学校、金岡中学校、加藤学園暁秀初等学校、門池小・中学校、沼津視覚特別支援学校、沼津聴覚特別支援学校			
	病院	沼津夜間救急医療センター			
	商業施設	フードストアあおき、国産電機			
	その他	JR沼津駅、沼津税務署、法務局沼津支局、沼津健康福祉プラザ、沼津年金事務所、沼津商工会議所			
収支率 (%) (収益/費用)	86.0		乗車人員 (人)	53,434	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停4	名称	拠点：JR沼津駅 バス停：加藤学園入口、天神ヶ尾、宮下、国産電機前		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	3.0				
増収策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 行政と連携し、地域との意見交換を行い、今後の路線バスの検討を行うとともに、その機会を利用して路線の存在をアピールするとにより、利用促進を図る。 2) コンテンツプロバイダにデータを提供し、時刻表検索サービスへの参加を図る。(ナビタイム、平成27年3月より提供開始。他のコンテンツプロバイダと折衝中) 3) 地域特化型の時刻表を作成し、行政の高齢者用の利用券等交付の際に各人へ配布。また自治会等地域の協力の下に時刻表の配布を実施。 4) 静岡運輸支局の「交通バリアフリー教室」への参加。幼稚園、小学校等における「バス乗り方教室」を3市町に拡大して実施した。(動機づけや校外利用促進) 5) ノンステップバスを継続導入するとともに、既存車両についても車内設備を更新し、使いやすいバス環境を整備する。 				
費用削減策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等についても、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 2) アイドリングストップ強化月間の実施や点呼等による周知徹底、街頭監査による注意喚起により、燃費向上を実現し軽油使用料の削減を図った。 3) 車両の更新により、燃費効率向上と修繕費の削減を図った。 4) 効率的な仕業再編による乗務員人件費の抑制を図った。 				
沿線市町のサポート	<p>【沼津市】</p> <p>平成28年1月19日に開催した沼津市公共交通活性化対策協議会において、事業評価及び今後の取組について協議、検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス乗り方教室の開催 ・地元との意見交換会等による利用促進 ・本路線を含めた市内全域バス路線図をバス協会と作成、公共施設や観光協会等に配布 ・本路線を含めた事業者作成のチラシ、時刻表を公共施設等に配布 ・市ホームページへの市内全域路線図掲載 ・市ホームページから運行事業者ホームページへのリンク <p>※事業者からも経費削減の取組の他、インターネットによる時刻表・運賃検索システムを導入予定との報告を受けた。引き続き事業者と連携して利用促進策に取り組んでいく。</p> <p>【長泉町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該路線については、沼津市内の高校生等の通学利用が中心ではあるが、地元区としては、沼津方面への買い物・通院等における交通手段として利用する者もあり、大切なインフラであると認識している。区の役員会での呼びかけや、路線に対する意見等も募集している。 <p>町としても引き続き地元区と連携して、運行に関する事業者への提案を検討するとともに、来年度以降バス事業者と連携した町内路線バスを対象とした啓発イベントについて企画検討を進めていく。</p>				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20</p>				

系統地図

凡例							
	申請番号	起点	経過地	終点	キロ程	競合区間	
		駿河平線	三島駅	がんセンター	駿河平	10.6	0.0
		須山線	三島駅	御宿	須山	19.8	7.0
		須山線	三島駅	今里集会所	須山	20.2	7.0
		須山線	三島駅	御宿	下和田上	15.4	7.0
		御長屋線	三島駅	がんセンター	桃沢郷	14.4	0.0
		御殿場線	三島駅	岩波	御殿場駅	21.9	7.6
	競合区間		(三島～佐野)合計7.0km (三島～御殿場)合計7.6km				



系統地図

